

1 主題

「伝えよう」「見付けよう」「深めよう」
ータブレット端末を活用し自分の考えを伝える活動を通してー

2 主題設定の理由

現在、GIGA スクール構想により、1人1台タブレット端末が配布され、学校教育の現場では情報化が急速に進んでいる。また、令和元年度に始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、学校においても甚大な影響を及ぼし、ICT環境を最大限に活用して学びの保障を進めることが小学校でも求められるようになった。この状況を踏まえ、名古屋市教育委員会は、令和4年度学校教育の努力目標を「ともに学び 自分らしく生きる」として、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことを求めている。このような状況の中で、児童の深い学びを実現させるためには、一人ひとりの興味関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「共同的な学び」の一体的な充実を図ることが大切であると考えます。

本校の子どもたちは、自分の考えを相手に伝えることに消極的になってしまったり、自分の考えを伝えることで満足してしまったりしている児童が多くみられる。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、グループ学習などの機会が減ったことで、友達と考えを交流させ、学習を進める機会が著しく減ってしまっている。そのため自分の考えを相手に伝え、交流する中で自分の考えを深めるということができていない児童が多く見られる。

そこで、本年度は、『伝えよう』『見付けよう』『深めよう』をテーマとして設定する。教師や児童がICT機器を最大限、有効的に活用することで、「個別最適な学び」と「共同的な学び」の一体的な充実を図り、児童に深い学びを実現させられるように研究を進めていきたいと考える。

3 手立て

タブレット端末を有効的に活用し、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを受け取ったりすることで、自分の考えを深めることができるようにする。

タブレット端末を活用する利点と考えられるものには、以下のようなものが考えられる。

タブレット端末を活用する利点

- ・ 多くの児童が自分の考えを伝えることができる。
- ・ 比較したり、変化を捉えたりすることができる。
- ・ 児童が目的に応じて、自分で対話の相手を選ぶことができる。
- ・ 学級全体の考えを整理することができる。
- ・ 児童の考えを一覧で示すことができ、考えを交流する時間を長く確保することができる。
- ・ 自分の考えや発表を残すことができる。
- ・ 自分の進度に応じて情報を得ることができる。

これらの利点を有効的に活用することで、児童の考えが深まるような実践を進めていきたいと考える。

4 学年ごとの目指す（考えが深まった）児童の姿

低学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えることができる。 相手の考えを聞き、感想をもつことができる。 学習成果物に対する感想や意見を伝え合い、自分の学習成果物の良いところを見付けることができる。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 互いの考えの共通点や相違点に気付き、自分の考えをまとめることができる。 目的や意図を踏まえて、学習成果物の部分に対する感想や意見を伝え合い、自分の学習成果物の良いところを見付けることができる。 考えを伝え合い、一人ひとりの違いに気付くことができる。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 互いの考えを比較しながら、自分の考えを広げたりまとめたりすることができる。 目的や意図を踏まえて、学習成果物全体の構想や展開等に対する感想や意見を伝え合い、自分の学習成果物の良いところを見付けることができる。 考えを共有し、自分の考えを広げたり、まとめたりすることができる。

5 研究の進め方

- (1) 前期授業実践（5～7月）は、各学年とひまわり学級は、それぞれ1授業実践を行う。授業実践前には、各学年に教務主任と努力点推進委員長を加えた構成員による事前検討会を行って学習指導案を作成する。学習指導案は、全職員に配付し、多くの職員の参観を促す。授業実践後は、参観者による事後検討会を行い、手だての成果と課題を検証する。
- (2) 中間報告書は、前期授業実践の内容を中心に、学年部会において検討し、報告書を作成する。
- (3) 後期授業実践（10～12月）は、前期授業実践を経て見出した手だての方向性を踏まえ、各学年は、それぞれ1授業実践を行う（ひまわり学級は年間で1実践）。授業実践前には、各学年に教務主任と努力点推進委員長を加えた構成員による事前検討会を行って学習指導案を作成する。学習指導案は、全職員に配付し、多くの職員の参観を促す。授業実践後は、参観者による事後検討会を行い、手だての成果と課題を検証する。
- (4) 最終報告書は、後期授業実践の内容を中心に、日々の授業の内容も加えて、学年部会において検証し、報告書を作成する。

6 研究組織



7 各会の役割と構成

推進委員会	研究主題・推進計画の作成と検討 中間報告書の作成	推進委員（各学年1名）
全体会	研究主題・推進計画の検討と決定	全員
学年部会	研究授業の実践と事前・事後検討 最終報告書の作成	各学年

8 年間計画

月日	会	内容
4月11日（月）	推進委員会	研究主題・推進計画の検討
4月14日（木）	全体会	研究主題・推進計画の検討・決定
5月9日（月）まで	学年部会	前期授業実践に向けて、単元・手だて・授業実践者等の検討 ※単元・授業実践者・実践時期を努力点推進委員長に報告
	学年部会	前期授業実践の事前検討会と事後検討会
9月27日（火）	学年部会	中間報告書の最終点検
9月29日（木）	全体会	中間報告会
10月7日（金）まで	学年部会	後期授業実践に向けて、単元・手だて・授業実践者等の検討 ※単元・授業実践者・実践時期を努力点推進委員長に報告
	学年部会	後期授業実践の事前検討と事後検討
2月7日（火）	学年部会	最終報告書の最終点検
2月9日（木）	全体会	最終報告会
3月22日（水）	推進委員会	次年度の研究主題・推進計画の検討